

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に全職員で意見を出し合って作成した。毎月ではないが、ユニット会議の場で確認し、実践できるようにしている。	理念は開設時にスタッフと話し合い作成しました。ユニットの玄関に理念を掲示し、ユニット会議の際には理念を確認する機会も設けています。職員が理念を実践できるように「さんぼくのおきて」も作成し、職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・小学校・中学校・学童などとの交流を定期的に行っている。また、地元のスーパーへの買い物や地域の行事にも積極的に出掛けている。	地域の芸能祭や敬老会、お茶会や花火大会に参加したり、中学生が体験学習に来てくれたり、近隣の保育園にご利用者と一緒に出かけするなどして地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域に出掛けたり、小学校の総合学習や、中学校の職場体験の受入れ、家族のつどいの受け入れを通して、施設及び認知症の方を理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催し、施設の実情をお話し、助言をいただきながら、日々の援助に活かすようにしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、市の担当者、包括支援センター職員、民生委員などに出席していただき、利用状況、事故報告、活動状況の報告と事業所への意見を頂くなどサービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話はもちろんの事、支所を訪れ相談をしたりしている。また、運営推進会議の場でも遠慮せず何でも話し合うようにし、関係を構築している。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。管理者も以前在宅介護支援センターに勤務していたこともあるので、気軽に相談をできる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中開放しており、夜7時に施錠し、朝7時に開放している。身体的拘束はもちろん、言葉での拘束をしないよう、職員同士で、お互いに注意しながら援助している。	身体拘束については行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしており、ご利用者の徘徊についても見守りを強化することを職員間で確認し、身体拘束に対する理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加者が復命し、虐待が行われないよう、ユニット会議の場や日々の援助の場面で、職員同士で注意している。	虐待に関しては外部研修参加者からユニット会議で報告する機会を設け、職員間での共有を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は各種研修で制度について学ぶ機会を設けているが、現在利用が必要な利用者が居ないことから、全職員が理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、身元引受人に対し、行っている。不明な点などは、気づいたときに遠慮なく聞いていただくようお願いさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる関係をつくり、遠慮なく、意見や要望を言っていただくように、職員も積極的にかかわっている。また、運営推進会議において、意見を述べていただいている。意見箱も各棟に設置している。	日々のご家族とのやりとりの中で意見や要望については確認をしています。またホームの納涼祭や餅つき大会などのご家族が集まる機会を設け、懇親を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダー会議に於いて、各棟の主任が、日々の職員の考えや提案などを意見交換し、反映できるように努めている。	日々の申し送り、毎月のユニット会議や日頃の業務のなかで管理者に意見を言える関係が構築されています。また、状況に応じて社長や管理者により個人面談も行なわれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員の採用基準を明確に示し、資質向上に努めている。また、福利厚生充実を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質向上の為、個々に合った研修へ参加していただいている。不定期ではあるが、復命を兼ねた勉強会を開催し、伝達するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に一回の圏域GH管理者意見交換会への参加と年一回の職員交流会により、意見交換や交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及び計画作成担当のみならず、全職員が利用者の話に耳を傾け、得た情報は、共有し援助に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者及び計画作成担当が、入所される段階で、家族の意見を良く聴き、サービス提供に反映している。また、他職員も面会時や電話などで、家族のご意見を伺い、全員で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が、利用者にとどのような暮らしをしてほしいかをよく伺い、グループホームでできるサービスをお伝えし、援助の内容を考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ること(食事の準備や掃除、洗濯物を干したり畳んだり)は、職員と一緒にいき、お手伝いいただき、助かっていることを感謝の言葉として伝え、関係づくりをしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければできないことを十分に理解し、折に触れ、ご家族の協力を得ながら、援助している。	3ヶ月に1回事業所の広報誌を送付しているほか、毎月ご利用者毎に計画作成担当者がお便りを作成し、ご家族にホームでの生活の状況をご理解いただいています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に地域行事に参加したり、地元のスーパーへ買い物に行くことにより、ご近所の方や知人と会い、会話する機会がある。また、行きつけの美容室での散髪を行っている。	幼なじみの方から面会に来て頂いたり、ご家族の協力も頂き、馴染みのスーパーへの買い物、行きつけの美容室への外出支援、自宅への外泊、地域の行事などに出かけることで、これまでの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが起きないように、日々様子を観察し、関係の把握に努め、必要に応じ、職員が介入し援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院経過が長期になり、退所された方が居られるが、退所後も折に触れ、ご本人の状況や今後の経過などをご家族と話したり、病院の相談員とも連絡を取り合い、支援したケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使って、個々を把握するとともに日々のかかわりの中で、ご本人の気持ちを十分に理解し、得られた情報は、職員間で共有し、個別対応に心掛けている。	ケアプランの見直しの際にも、事前にご利用者・ご家族にも意向の確認をしているほか、毎月のユニット会議でカンファレンスの時間を設け、ご利用者の要望を職員間で確認し、その都度対応するようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族だけでなく、友人や兄弟、親戚の方からも話を伺っている。また、日々のレクの中で、昔の生活や馴染みのものを探るようにしている。	センター方式にてご本人やご家族からの契約時の聞き取りのほか、居室担当者が情報の見直しも行い、日々の暮らしの中で得られた情報も追加されています。	ご利用者の情報については、随時の情報の追加だけでなく、定期的な見直しも行われることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調だけでなく、精神面での変化がないか、日々観察している。また、変化などは毎日の申し送りにより、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向は、日々の会話の中から聞き出している。また、家族からも意向を確認し、職員会議の中で、本人の状態にあった援助内容を検討し、介護計画に反映している。	介護計画については3ヶ月に1回、計画作成担当者による定期的な評価及び見直しを行っているほか、ユニット会議でもカンファレンスの時間を設け、ご利用者の状態変化時にも見直しの対応をしています。	居室担当職員が介護計画の作成やモニタリングにも参画されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や申し送りにて、情報を共有し、対応を検討し、計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やドライブなど、出来る限りご本人の希望に沿えるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には、積極的に参加し、利用者の元気な姿を見ていただくことにより、地域の方からも催し物がある時には声をかけていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医を変更せず、職員が受診の対応をし、必要に応じて、ご家族に相談したりしながら、安心して施設生活が送れるよう支援している。	かかりつけ医は入所の際もこれまでの医師を継続していただいております。状況に応じて職員が受診に同行し、医師にご利用者の状態を説明しています。また、日々のバイタルの記録用紙を医師に渡すなどの情報提供も行っていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も早い段階で看護師に報告し、情報を共有、適切な対応ができるように連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際や入院中、退院に際しては、病院の相談員や看護師との話し合いの機会を設け、情報交換や連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、身元引受人に対し、看取りは行わない旨をお伝えしている。また、重度化した場合における指針を策定しており、必要に応じて随時説明していく予定である。	管理者はグループホームを中間施設ととらえ看取りまでは事業所では行なわないという考えであり、ホームの重度化した際の対応の指針も作成し、契約時にご家族に説明しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、職員がいつでも見れるようにしている。また、救命講習を行うことにより、いざという時に備え定期的に訓練をしていきたいと考えている。	緊急連絡網、緊急時の対応マニュアルは作成されており、ホームでも救命講習を行う等、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練の他、地域で行われる防災訓練にも参加し、避難経路や持ち出し物品について確認している。今年度は、起震車の体験もでき、地震に対する心構えができたと思う。	5月に日中の火災を想定した避難訓練、11月には夜間の火災を想定した避難訓練を実施するとともに、8月には地域の防災訓練にも参加し、災害時に適切に対応できるように努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の自尊心を傷つけないように、タイミングや言葉を選んで声掛けを行っている。時には気づいた職員同士で注意しあいながら、ご利用者を傷つけないように。	広報誌に写真を載せる際も必ずご家族から同意を得ています。日々のご利用者への声かけについても会議にて確認する機会を設け、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思決定できるような声掛けを行っている。難しい方には、選択肢を用いることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、個別対応を心掛け援助している。食事の時間や入浴の時間など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好む色やデザインの衣類を一緒に準備したり、髪をとかししたりなど、出来る限り行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、ご本人の好みのメニューを取り入れたり、畑で採れた野菜を使用し、郷土料理も作っている。また、苦手なものは、代用品を提供するなどしている。食事の準備や片づけは、一緒に行っている。	調理作業を手伝っている方や片付けを行なっている方など、ご利用者の能力に応じて作業に参加してもらっています。また、ご利用者に食事を楽しんで頂くために好みのメニューを取り入れたり、ホームの畑でさといも・白菜・大根なども栽培し、収穫を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	受診の際、医師と相談し、必要に応じて、病院の管理栄養士の指導を受け、摂取量などを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後、声掛けにより、口腔の清潔が保てるようにケアしている。できない方には、職員がお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察の中で、個々の排泄パターンを把握し、必要時応じて声掛けを行うなどしている。尿漏れがあり、パットを使用されている方も居られるが、プライバシーに配慮しながら、出来ない部分のお手伝いをさせていただいている。	全員を対象に排便チェックを実施し、ご利用者の排泄パターンを把握しており、状況に応じた声かけを行なっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックをし、把握に努めている。水分補給や運動などが十分に行えず、便秘傾向の方が増えている。必要に応じて下剤を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、一日おきの入浴となっているが、希望があれば、その都度対応している。また、変り湯をしたり、温泉へ出掛けるなどし、入浴を楽しんでいただけるようにしている。	両ユニットには一般の家庭と同じタイプのお風呂があり、新しく開設したユニットには特殊浴槽も用意されています。気の合うご利用者で入浴されるご利用者もいるほか、温泉へ出かけたり、季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯、ヨモギ湯を楽しみなど、ご利用者の希望に応じた入浴支援がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や照明など、一人一人のペースに合った休息を取っていただけるよう、声掛けやお手伝いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を確認し、副作用にも注意しながら、確実に服用するよう見守り、お手伝いしている。不明な点は、看護師に確認し、利用者にも説明できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や家事仕事など、個々の能力と趣味に見合った作業をしていただいたり、歌を歌ったり、散歩やドライブをするなど、気分転換できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の声を聴き、できる限り要望がかなうよう支援している。また、季節感を味わえるように、春のひな祭りやイチゴ狩り、秋の紅葉狩りやぶどう狩りなど家族や地域ボランティアさんの協力をえながら、行っている。	近くのスーパー、ご利用者の自宅、外食支援、理美容支援などご利用者の要望に応じた外出支援に努めています。また、季節に応じていちご狩りやぶどう狩りなどへも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は、お持ちいただき、紛失などの危険がある方に関しては、現金をお預かりし、ご本人が欲しいものを購入できるように、お預かりしているお金があることをお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話を掛けたり、手紙を出したりされている。取次や投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、整理整頓し、皆さんが気持ちよく使用できるようにしている。また、季節に応じた行事の写真や装飾をし、季節感を味わえるようにしている。	共用スペースは採光を充分に取り入れるつくりとなっており、ご利用者同士がソファでゆったりとテレビを見ながら過ごせる家庭的な雰囲気がありました。日々の暮らしぶりが分かる写真が掲載しており、お花を飾るなどして季節感を出す工夫もされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん、好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は完全個室であり、それぞれに馴染みのタンスやベッドを持ち込まれ、家族とともに配置されている。居室は、個々の家になってきている。	昔から使用していたタンスやテレビを持ち込んでいたり、写真や人形などを飾るなどして、自分に合った居室にされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、住み慣れた環境になっており、トイレなども自ら行くことができている。また、段差や障害物をなくし、廊下には、手すりを設置し、安全に移動できるように気を付けている。		